

第4回学校活性化那賀町地域協議会会議録

委員

計画を実行する上での予算及び人的配置については、どのようになりますか。

事務局

昨年度から3年間、学校間連携推進事業費が認められており、本年度は100万円を上限としてついています。それを使っていただいて活性化計画を進めていただけたらと考えています。

委員

予算はわかりましたが、人的配置はどうなっているのでしょうか。現在、那賀高校の先生方は熱心に生徒を指導してくれています。この計画をすすめるにあたり、教員の負担は増えると思います。

事務局

人的配置に関しては教職員課が担当しておりますので、我々からも、できる限り必要な配置をお願いしていきます。

委員

現在の那賀高校は、教職員の多大な努力に頼っているように思います。

委員

今年度、県教育委員会から、「那賀高校は地域協議会のご意見をお聞きして頑張ってもらいたい。」ということで、人的配置については、考慮していただいたと思っています。来年度以降、今後の活性化により本校として存続するためにも、教職員課に人的配置を要望していきます。

委員

人的配置については、連携型中高一貫教育校として、中学校についても考慮していただいています。今後も継続していただけるよう要望していきます。

現在の中高連携により、知っている先生がいるということで、連携中学生は那賀高校へ進学しやすくなっていると思います。ですから、連携型の特長としてのTT（ティーム・ティーチング）が継続できるような人的配置をお願いしていきます。

町としても那賀高校の振興について大きな関心を寄せています。できる範囲で協力は惜しまないつもりですので、必要な施策については今後とも検討し協力していきたいと考えています。

委員

ありがとうございます。中学生的那賀高校への進学希望はどうか。

委員

例年、約半数の生徒が那賀高校に進学していますので、まとまった人数が入学していません。しかし、本年度は那賀町内の中学3年生が65名と少ない状況になっています。

委員

町内中学生全員が那賀高校に進学したとしても、来年は65名しか入学生が見込めません。もっと魅力ある学校にしていかなければなりません。

委員

部活動や資格取得面では、生徒同士の競争原理が働いていると思いますが、普段の学習面では競争原理的なものがあるのでしょうか。前回の地域協議会において、連携型入学者選抜に学力検査を導入してはどうかなどの意見があったように、小中高12年間の中で、励みになるような一つのステップ競争や自分の個性を出して身につけることができる魅力あるものが学習面において必要ではないでしょうか。

事務局

学力の向上に関しては、個人教育記録を導入し、生徒の学習指導や進路指導において6年間継続的に活用します。そして、ある種の競争原理になると思いますが、他の高校との合同による進学補習や進学合宿を実施して、他校生からいろいろな刺激を受けることにより学力の向上を図れると考えています。

また、土曜補習、早朝補習、個別の学習指導の実施を考えておりますが、進路に対する意識付けなどを含めて、長期休業中には地元出身の大学生を招いて、学習指導に活用させていただこうと考えています。

連携型入学者選抜における学力検査の導入については、前回の地域協議会でお話ししたように、連携型中高一貫教育の趣旨を考えて、連携をしているからこそできる学力向上策を検討していただくことでご理解ください。

委員

現在的那賀高校の入学者選抜について教えてください。

委員

平成20年度入学者選抜も基本的には例年と変わりなく、募集定員に対する募集割合は、連携型で6割程度、前期選抜で3割の予定です。なお、本年度の前期選抜において、要件アより要件イの募集割合を高くしたのは、県内で本校だけです。

また、先ほどお話が出た、学力の向上ですが、昨年度から実施している土曜日の活用では、昨年度に比べると、生徒の学習に対する意欲が高くなってきていると感じています。

事務局

土曜日の活用に関しては、自習形式で昨年度は実施していましたが、本年度は、補習形式で実施をしています。今後も生徒の状況に応じて実施していきたいと考えています。

委員

本校では、生徒の学力を高めるために、本年度から英語と数学に関して習熟度別学習を取り入れています。1，2年生で実施していますが、特に、4年制大学などの受験を意識した授業では、少人数で展開することにより学力の向上を目指しています。

成果がでるのは、何年か先になると思いますが、将来、全学年で実施したいと考えています。

委員

大学へは一般入試と推薦入試のどちらで合格しているのでしょうか。

委員

昨年度は4年制大学に10名合格しており、うち4名が国公立大学で、全員、推薦入試で合格しています。部活動やボランティア活動の実績を加味して推薦による合格を得ています。

今後は、国公立大学合格者の目標を10人に設定し、一般入試でも合格できるようにしていきたいと考えています。

ですから、中学校の方から、大学などへの進学希望の生徒を、たくさん送っていただくようお願いいたします。

委員

今の生徒の保護者には、那賀高校は、家政科や農林科のイメージが強く、大学などへの進学は、富岡西高校か富岡東高校というイメージが残っているように思います。保護者に学校のアピールができていないと思うので、広報活動に力を入れてください。

委員

『せせらぎ新聞』は、いつ発行されていますか。充実するために、もっと発行するべきではありませんか。

事務局

『せせらぎ新聞』については、各学期毎、年間3回発行しています。内容としては、連携型中高一貫教育をさらに充実させることと、那賀高校の活動状況を掲載しています。今後、更に充実を図りたいと考えています。

事務局

本年度は、前回までの地域協議会でご提案いただいた活性化策の中から、福祉餅つき大会や部活動の中高合同練習会など、できることは、さっそく取り掛かっております。

また、那賀高校のホームページ（HP）は、毎日更新しております、「那賀高校のHPは充実している。」との声をいただいています。HPでの広報は、費用もかかりませんので、さらに充実させたいと考えています。

そのような状況ですので、本年度の『せせらぎ新聞』については、年3回の発行に留めますが、那賀高校を活性化するための行事については、どんどん取り入れていきたいと考えています。

委員

入学者80名の中には、町外の生徒や、町内といっても木頭などからの遠距離通学生がいます。やはり宿舎をもっと充実しなければならないと思います。

委員

本校の寮は、現在、満室状態で、町の教職員住宅も利用させていただいています。来年度も引き続き、町の教職員住宅を貸していただくことにしています。

委員

高校、大学に進学できる環境整備ということで、那賀町は、奨学金制度を設けています。無利子で貸与していますので、制度を利用することにより大学へも進学しやすくなっています。本日、今年度の審査委員会がありましたが、希望者がまだまだ少なく、もっと活用してくれたらと考えています。

委員

カヌー部など部活動における全国大会規模での活躍はありますか。また、県外から那賀高校への進学予定者はいますか。

委員

今年度のカヌー部は、2年生が頑張っており、インターハイに9名出場予定であり、国体へも出場予定です。これだけ頑張っているカヌー部ですが、現在の部員数は多くありません。しかし、8月に実施する中学生体験入学では、町外の生徒からカヌー体験希望者が多く、さらに活発な活動をしたいと考えています。

委員

過去には、ボランティアにおいて全国表彰をされた生徒がいると聞いていますが、現在のボランティア活動はどうか。以前に活躍していた生徒の活動を引き継いでいるようなところはありますか。

委員

詳しくは把握していませんが、JRC部を中心に地元の施設などでボランティア活動を実施したり、書道部などの協力を得た活動など、地道な取り組みは、先輩の活動を継続しています。

委員

体育部だけではなく、ボランティアでも活躍していることを知っていただきたい。

委員

部活動の活性化として、「指導者の確保」となっていますが、どういう形でできるのでしょうか。部活動は指導者の影響が大きいと考えていますので、担当教科などの問題もあり、優先的に異動してもらえるのでしょうか。

委員

現在は、カヌー、バレーボール、ソフトテニス、硬式野球、剣道などそれぞれの専門家が指導しています。今年度の教員の異動で指導者が変わった部活動もありましたが、剣道部では、四国総体の個人戦で準優勝、国体への出場、ソフトテニス部では、若手で地元の先生が熱心に取り組んでおります。

また、バレーボール部は、地元の先生がずっと頑張っており、本校活性化の核となっています。さらに、カヌー部においては、今年度赴任した先生も頑張っており、次の後継者として考えています。

今後も専門性を発揮して、本校の活性化のために頑張ってくださいと考えています。

委員

昨年、研修で他県に行ったところ、学校の先生方が指導力向上のために塾の授業を受けていました。塾や予備校は大学入試の専門家なので、その指導方法の研修でした。本校での指導方法の工夫についてはいかがでしょうか。

事務局

塾や予備校での研修に行ったことはありますが、今の生徒がいかに学力をつけていくかという視点においては、別の研修の仕方があると思います。今は、生徒の状況に即して毎日の授業に取り組んでおります。

委員

本校ではAO入試において、プラスになるような教育活動をされているように感じますが、何かされていますか。

委員

本校の学校運営は非常にスムーズであると感じています。特に、昨年度、一昨年度と進路の達成率が100%となっておりますし、今年度の4年制大学進学者10名の内4名が国公立大学に進学しております。このことは、個人的に能力の高い先生方がたくさんおり、進路指導や教科指導をしていただいたことによると感じています。

そういう指導力の高い先生方が多い本校へ、ぜひ、地元の中학생で高校卒業後に進学を希望している生徒を送ってください。生徒の力を十分伸ばすだけの力を持っている先生方が揃っております。

現在、4年制大学への進学希望者は少ないのですが、土曜日の活用、補習、習熟度別・到達度別授業でどんどん力を伸ばします。他の学校には負けない努力をしていきたいと考えていますので、保護者の方に那賀高校は頑張っているんだということを伝えてください。

委員

那賀町内の中学3年生65名全員が、那賀高校に来ていただけるようによろしくお願いします。

委員

4中学校から那賀高校への進学状況では、現在、ちょっと少ない状態ですが、中学校が何もしていない状況ではありません。これまでも努力をしてくれています。しかし、前期選抜の導入は大打撃でした。

それから、「個性重視」「ニーズに対応」など非常にいい言葉なのですが、生徒の学習意欲が低下したように思います。高校生になっていきなり学力が伸びることは、あまりなく、高校進学までかなりの学力を持っていないと、大学入試センター試験を使って国公立大学へ合格することは難しいと思います。

委員

那賀高校の約半数が進学希望のようですが、最初に申し上げたように、検定、スポーツ等ではそのつど存在感がでますが、進学については3年間経ってみないと自己の存在感を感じる時がないように感じ、あまりにもスパンが長すぎるように思います。

ここに個人教育記録の導入とありますが、自己の歩みだけではなく、他者とのいろいろな面での競争があり、そのことにより自分が認められるような記録を作成すれば、学習に対して意欲的に取り組めるようになるのではないのでしょうか。

国公立大学への進学者を増やすのであれば、競争原理の観点からも考えないと、なかなか、人数が増えないと思います。学力の高い生徒を送ってくれたらという考えではなく、現在の生徒の学力を高めるためにどんな方法があるのかを考えなければなりません。それには、少しの歩みでも認められる評価がないと難しいと考えています。

大人も子どもも他者から認められることに喜びを感じます。学習面において、「土曜の補習をよく頑張っている」というだけでは励みにならないと思います。個人教育記録の導入にあたって再考を要すると思います。自己の存在感、達成感を味わえるような他者との競争の機会を設ければ、学力も伸びるのではないのでしょうか。

委員

校外模擬試験などを利用したらどうでしょうか。

事務局

校外模擬試験の実施回数は、進学校と呼ばれている学校に比べると若干少ない現状です。しかし、進学希望者が約半数という現状ですので、校外模擬試験の回数を増やすことについては十分検討しなければならないと思っています。

委員

校外模擬試験では自分のことしかわかりません。

委員

校外模擬試験の成績は、校内の学力向上委員会で分析し、教員の指導に役立つようにしています。

委員

スポーツは新聞に載るなど、達成感を味わえる機会があります。しかし、学力面で存在感をアピールし、実感できる機会がありません。自分との戦いではなく、他者との戦いの機会がありません。高校入試も競争するようなものではなく、入学後も気分的に緩んだ中、3年間を送ることに繋がっていると感じます。国公立大学に進学する生徒を増やすのであれば、学習の成果が外に出るような、表彰などの形があればよいと思います。

事務局

各種検定に参加し、合格を得ることで、達成感を味わえるのではないのでしょうか。モチベーションを高める一つの方法として検定の活用を考えています。

委員

個人教育記録とはどういうものですか。

事務局

個人教育記録については、生徒の様々な場面における学習状況や進路に対する本人・保護者の考えについて記録し、それを引き継ぐように考えています。しかし、各教科の5段階評定など具体的な数字に関しては生徒指導要録があり、中学校から高校へ引き継ぐことになっています。ですから、個人教育記録に関しては、生徒の変化を文章として残し、指導の糧になる記録として活用できればと考えています。

委員

学校教育の中にも生徒がなにか緊張感を持てるような取り組みをすれば、伸びようと努力をするのではないのでしょうか。個人教育記録を工夫して活用してはどうでしょうか。

委員

個人教育記録については、開示しなければならなくなると思います。私としては、「この子はこのように指導してもらえば伸びる」というような内容にしてもらいたいと考えています。

委員

報告書(案)11ページの「本校規模を望む」は「本校規模を維持しなければならない」といったもっと強い表現してください。

委員

積極的な内容の表現にして欲しいとのことですがどうでしょうか。事務局から、何かよい案はありませんか。

事務局

委員の皆様でご協議いただき、強い表現に変えていただければと思います。このくだりは委員の皆様の思いを表現すべきところであると思います。

委員

「・・・活性化を強く推進するものである」はどうでしょうか。「推進」という表現にすれば、よりしっかりしたものになると思います。

那賀高校の先生方は私達の思いを受け、本校が発展するために日々尽力してくれていますので、気持ちを汲んだ表現にしなければなりません。

委員

まとめの言葉ですので、大切なところだと思います。

委員

会長と副会長に修正していただいた上で、報告書としていただければと思います。

委員

今のようなご意見をいただきましたが、皆さんいかがでしょうか。

それでは、そのようにして、もう少し気持ちのこもった表現に変更したいと思います。